

平成22年度仙台教育事務所ジュニア・リーダー中級研修会  
「ジュニア・リーダーの心構え」(各 JL サークルの役割と積極的な取り組みに向けて)

H 2 2 . 7 . 2 3  
塩竈市立第一小学校 教諭 浦山正幸

1. ジュニア・リーダーを取り巻く環境について

1) 子どもの実態

(1) 内閣府調査結果から

- 家庭でのしつけや教育が不十分である。
- 地域社会で子どもが安全に生活できなくなっている。
- テレビやインターネットなどのメディアなどから子どもたちが悪い影響を受けている。
- 12～17歳の子どもの自由時間の過ごし方は、「テレビ」「漫画」「CD等で音鑑賞」「テレビゲーム」など、一人遊びが大半を占めている。



(2) 文部科学省スクールミーティングから

- 子どもが外で遊ばなくなり発達に応じた遊びや体験がない。
- コミュニケーションが取れなくなった。

2) 保護者の実態

- 遊びや自然体験、生活体験、社会体験などの体験活動よりは、学校での勉強や部活、習い事に関心が向きがちである。
- また、家庭教育の意義を学んだり、子ども会活動も含め地域全体で子どもを育てようとする意識が低い傾向にある。ex 自然体験よりボーリング、カラオケ
- 一方、自分自身の子育てへの不安や迷いはある。
- 家族以外の多様な人との交流が、社会で通用する価値や考え方を学ぶ場になることへの意識が低い。

3) 地域の実態

- 地域社会に生活する一人ひとりが、独自の経験や技術等をもつ人材である。
- 本物の社会での実践を通じた人格形成と学習の場である。
- しかし、各家庭のあり方の多様化、個別化等により人とのかかわりが希薄になっている。人付き合いはストレスも喜びも生み出すが・・・。「つながりたい」という潜在意識はあると信じていたい。

※親子の対話が少ない家庭離れ、塾通い、不登校などの学校離れ、身近なことより遠くのことへの関心を多く持つ地域離れ。

4) ジュニア・リーダーの実態

- 市町村教育委員会の指導のもと、地域に根ざした活動を行っている若い世代ボランティア団体である。
- しかし、同世代の中高生や大人、教職員からは、その存在や活動内容があまり知られていない。さらに、一部の教職員は、ジュニア・リーダー活動を否

定的に捉えている実態がある。

- ジュニア・リーダーの中高生自身、勉強と部活動、さらには塾など多忙なためジュニア・リーダー活動の制約を受けている。
- また、活動内容がマンネリ化したり、ジュニア・リーダー自身が未熟であり活動が低調になりがちである。
- 一方で、各行政の担当者と楽しく魅力溢れる活動を行っているジュニア・リーダーもたくさんいる！新しい取り組みもどんどん生まれている！！

#### 5) ジュニア・リーダー経験者の実態

- 現役を退いた後は、社会教育分野での活躍の実績と意欲があるにもかかわらず地域社会での活動の場がつけられていない状況にある。
- 大学生や社会人一年生となり、地元を離れたり、仕事で忙しくなったりと地域活動を行う時間的・精神的な余裕は少なくなってしまう。
- 市町村教育委員会では、ジュニア・リーダー経験者の活動を推進するための事業を立ち上げたり、自主的な活動運営ができるような手厚い支援が行えないのが現状である。

#### 2. ジュニア・リーダー育成について

- 学校や家庭、地域で学んだことを実践する場としての地域社会。ジュニア・リーダーを地域で活動する青少年ボランティアのリーダーとして全県的に育成していく。
- リーダーとして、率先して地域活動等を行うとともに、同世代の青少年、異世代の方々への地域活動等への参加や参画を促す取り組みを行う。
- 子ども会活動の支援と地域活動の二本柱での活動を展開する。



※各市町村の実態・願いによって柔軟に多様な活動を。

#### 3. ジュニア・リーダーサークルの役割

- 一緒に人生の一部を共有する仲間。一緒に生活をしているということの再認識。仲間がいて、集団内での励ましや賞賛があって、やりがいも高まる。大人も子どもも同じ。
- 交流を通して人間形成・ネットワークが促進される。血縁社会から結縁社会へ。自分のまちを元気にする起爆剤に。「よそもの、ばかもの、わかもの」が新しい明日を生み出す。
- 三人寄れば文殊の知恵で熟慮断行。行動すれば十両方の評価が生じる。批判を恐れずに行動しよう。

※受験が中高生の生き方に大きな影響を与えている。そのなかで、地域活動を行う意義は薄まり、意識が高まりにくいのが現状であると思う。しかし、受験や将来的には会社以外の一見無駄に見える体験には、人生の遊びがあり、多様な学びがあり、社会を元気にする交流や貢献がある。人生の醍醐味である。

#### 4. ジュニア・リーダーの積極的な取り組みについて

##### 1) フットワーク・ネットワーク・チームワークあるサークル活動

- 「子ども、家庭、地域」が欲していること、必要なことについての情報を集

めよう。活動内容の出発点は、子ども、中高生、大人などの関心を見つけ出す発掘作業から始まる。カブトムシ？遊び場？祭り？

- 役所に行って各課を回って、情報を集めよう。話を聞こう、顔見知りになろう。待っていてはだめ。行政の縦割りをつなげていける可能性も秘めている。農村振興課？食産業振興課？観光課？
- 新聞を読もう。小学生・中学生・高校生が魅力的な活動をしています。
- ジュニア・リーダー担当の役場職員と仲良くなろう。何でも相談しよう。お互いに敬意と節度をもって関わり合うことだと思います。必要以上に卑屈になる必要はない。
- 生涯学習社会のキーワード「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」
- 世間・社会に波風を立てよう。ジュニア・リーダー活動は刺激的な教育活動です。

## 2) まずは仲間と体験してみよう

- 冒険あそび場
- グリーンツーリズム
- おやじの会
- 自然の家
- 駄菓子屋楽校
- NPO 団体
- 地域のボランティア団体
- 社会福祉協議会
- 地域の祭り



## 3) 仲間と企画してやってみよう

- キャラクターショー
- バルーンアート
- 段ボール迷路
- 砂浜アート
- 巨大スクリーンゲーム大会
- スタンプラリー
- スポーツチャンバラ
- お化け屋敷
- ミニ四駆大会
- 公園でのお遊び会（公園に遊び声を！）
- フリマ
- 割り箸鉄砲
- 雪だるま作り
- 千羽鶴作り



## 4) 手をつなごう。連携しよう

- 保育所で読み聞かせ
- 文化財保護委員との観光ガイド
- 地域発のB級グルメ開発
- 伝統芸能の受け継ぎ
- 婦人会とのEM菌づくり
- 敬老会とのスポーツ大会



おわりに

### ①ジュニア・リーダー手帳の活用を

②ジュニア・リーダーが、あらゆる人々を、この地域に生きていてよかったと実感させる「人在」から「人材」へ。そして、「人財」に。

③「少にして学べば、則ち壮にして為すことあり。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず。」

**意訳** 人は、小さいときに学ぶ楽しさを知れば、大人になった時に社会の役に立つ人物となる。30歳を過ぎて学ぶ意欲が心の底から湧き出てくるようだと、中高年と言われる年代の人生が充実し、自ずと周囲を明かるくする。70代、80代で学ぶ人は、今までの人生経験に輝きが増し、後世の人々に大きな目標・理想の炎を燃やし続けさせる人物になる。